

# Practice of the telephone support to a caregivers with a child : The Fukushima Health Management Survey

福島県県民健康調査「こころの健康度・生活習慣に関する調査」における  
中学生以下の子どもをもつ保護者への電話支援の実践

及川祐一

福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター

## 著者

及川祐一<sup>1</sup>、桃井真帆<sup>1,2</sup>、前田正治<sup>1,2</sup>

1 福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター、2 福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座

## 要約

福島県の沿岸地域、浜通りなどに住む約 20 万人の住民を対象に、自己評価尺度を用いたメンタルヘルスとライフスタイル調査である、福島県県民健康調査「こころの健康度・生活習慣に関する調査」が平成 23 年度から実施されています。この調査にかかわり、私たちは心理的、行動的な問題などで危険にさらされている住民のために、電話と郵便で支援を行っています。

本研究では、平成 23 年度から 27 年度までの 5 年間にわたり、中学生以下の子どもとその保護者に対する架電型電話支援の役割や効果について検討しました。電話支援の結果、体調不良や学校不適応があり、心配であると判断された子どもが平成 25 年度は 21.6% に上り、それ以外の年度は約 13% でした。

電話によるこうしたサポートは、被災者が多数出るなど、広範囲な影響をもたらす大規模な災害などが起きた場合に、より効果的であると考えます。

## 掲載情報

「Journal of Health Psychology Research」(2020 年)

---

Yuichi, Oikawa, Maho, Momoi, Masaharu, Maeda.

Journal of Health Psychology Research. 2020 Apr; Vol.32, Special issue :151-159